



連載 野尻哲史の
英国に学ぶ
金融アドバイス業務

第2回 英国IFAはもうかっているのか

合同会社フィンウェル研究所 代表 野尻 哲史

IFA (Independent Financial Advisor) の話をすると、「英国のIFAは本当にもうかっているのか」とよく聞かれます。これは、日本ではまだまだファイナンシャル・アドバイスがビジネスとして成り立っていないことからくる疑念でしょう。また、「英国ではIFAが富裕層をターゲットにしているから何とかもうかっている」といった指摘もあります。どちらも日本でのIFAビジネスに懐疑的なコメントの代表例です。

そこで今回は、英国IFAビジネスの実情について、金融当局に届けられている数字を基に分析してみたいと思います。結論から言うと、零細企業が多い英国IFAではありますが、年間収入はアドバイザー1人当たり平均、日本円換算で2500万円前後はあることが分かっています。

金融アドバイスを提供する
企業は5000社強

まず、IFAビジネスの企業規模感から見てみましょう。英国の金融当局はFCA (Financial Conduct Authority、金融行動監督機構) と呼ばれており、2016年以降は不動産や保険、投資商品に関するアドバイスを消費者向けに提供する企業に対し、業務活動の状況を毎年報告させています。これは、Retail Mediation Activities Return (RMAR) と呼ばれる報告書で、直近では2020年7月に発表されています。

この報告書によると、2019年12月時点でFCAに登録されている個人向けの金融ビジネスを行う企業の数は1万1867社(年間の収益を報告している企業のみ)、そのうち主要業務としてファイナンシャル・アドバイスを手掛ける企業は

5019社と、全体の42.3%を占めています。主要業務として保険販売を手掛ける企業は4888社で、企業数ではこの2つがほぼ拮抗しています。

また、ファイナンシャル・アドバイザーの収益の8割は投資信託などの投資商品の提供によるアドバイス・フィーで、それ以外に保険や不動産の販売も手掛けており、そこからの収益も2割あるという実情が浮かび上がってきます。

9割がアドバイザー
5人以下の企業

英国でファイナンシャル・アドバイスを提供する企業のうち、1人のアドバイザーで業務を行っているところは2448社と、全体の約半数(46.8%)を占めています(ファイナンシャル・アドバイスを提供する企業の総数はダブルカウントの分も含めて5236社、アドバイザーは2万7557名)。さらに5名以下のアドバイザーまで広げてみると、企業数は4655社となり、全体の約9割(88.9%)に達します。

一方、平均300名弱のアドバイザーを抱える大手企業も45社あり、そこで働くアドバイザーの数は、アドバイザー全体の約半数(46.8%)に達しています。

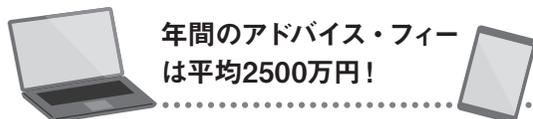
このような規模別の分類を総じて見ると、アドバイザー5人以下の企業が企業数で9割、そこで働くアドバイザー数で5割強というのが、英国におけるアドバイザー業界の実態です。仮にすべての数字を合算しても、1社当たりの平均アドバイザー数は5人程度にとどまります。

【図表1】アドバイザーの規模別の企業数、アドバイザー数

アドバイザー数	企業数(社)	投資商品を提供するアドバイザー数(人)	1社当たりアドバイザー数(人)
1名	2448	2448	1
2~5名	2207	6029	2.8
6~50名	536	6029	11.2
50名	45	1万2886	286.4
合計	5236	2万7557	5.3

注：2019年12月時点でFCAに登録された企業。アドバイザーが複数の企業と契約をしているケースもあり、その場合はダブルカウントしている。1社当たりのアドバイザー数は筆者算出。

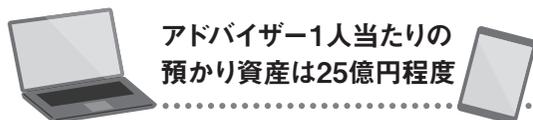
出所：Data from the Retail Mediation Activities Return (RMAR)、2020年7月



年間のアドバイス・フィー は平均2500万円!

【図表2】からは、企業規模が違ってアドバイザー1人当たりの年間収入にはあまり変化がないことが読み取れます（【図表2】のアドバイザー規模別の企業数やアドバイザー数が【図表1】を下回っているのは、年間の収益を報告している企業のみを対象にしているため）。

1アドバイザー当たりの平均収入（個人向けのアドバイスに関する収入のみ）を企業規模別に見ると、アドバイザー1名の会社では16.6万ポンドで、6～50名以下の企業で18.9万ポンド、50名以上（平均で1社約300名程度）の会社でも16.0万ポンドでした。IFA企業には規模別にいろいろな形態がありますが、興味深いことにアドバイザー1名当たりの年間アドバイス収入は、会社の規模に関係なく、ほぼ同じ水準に収斂しています。これを1ポンド＝140円で換算すると、収入は2200万円～2700万円となります。



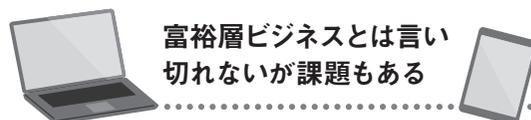
アドバイザー1人当たりの 預かり資産は25億円程度

2019年のデータでは、その年に新たに顧客となった人数は73.9万人、年末時点で継続アドバイスを提供している顧客数は全体で334.1万人でした。アドバイザーの総数（2.7万人強）から計算すると、アドバイザー1人当たりの顧客数は120人強（約121人）となります。

アドバイス・フィーに関しては、初期のアドバイスと継続アドバイスでは水準が異なります。アドバイザーによっては、時間給的なアプローチのアドバイス料を設定しているところもありますが、大半は投資金額や残高に対する一定のフィー（初期のアドバイスは投資額の1.0～3.0

%、継続アドバイス料は残高に対して年間0.5～1.0%）を受け取っています。

これらの数字から（かなり乱暴ではありますが）、顧客約120名で全てのサービスのアドバイス・フィーの平均が1%だったと想定した場合、年間の収入が2500万円程度になるように逆算すると、アドバイザー1人当たりの預かり資産額は25億円前後ということになります。



富裕層ビジネスとは言い 切れないが課題もある

日本の証券会社における営業員1名当たりの預かり資産と比較すれば、これらの数値にそれほど差がないことが分かります。その点で、「英国は富裕層に特化しているから利益が出ている」とは言い切れないでしょう。また、英国では富裕層への進出を目指す動きが従前よりも活発化していますが、それでもまだ平均値を大きく上昇させるまでには至っていません。

英国の金融当局は、アドバイス料が高くてアドバイスを受けられない人々がいることを「アドバイス・ギャップ」と呼び、今後の課題として捉えています。日本でも本当にアドバイスが必要な若い世代に対して、それを届ける必要性が高まりそうです。

【図表2】アドバイザー規模別のファイナンシャル・アドバイザー企業の収入状況

アドバイザーの規模	企業数(社)	アドバイザー数(名)	1社当たり平均収入(£)	1アドバイザー当たり平均収入(£)
1名	2371	2371	16万6019	16万6019
2～5名	2066	5749	51万8812	18万6444
6～50名	435	4702	204万7789	18万9449
50名以上	36	1万1686	5203万6179	16万0303
合計	4908	2万3908		

注：2019年12月FCAに登録し、年間収支報告を提出した企業。収入はRetail Investments Revenueのみを掲載。アドバイザーが複数の企業と契約をしているケースもあり、その場合はダブルカウントしている。1アドバイザー当たりの平均収入は筆者算出。

出所：Data from the Retail Mediation Activities Return (RMAR)、2020年7月

のじり さとし 1959年生まれ。2019年5月、定年後の雇用延長契約でフィデリティ退職・投資教育研究所所長を続ける傍ら、合同会社フィンウェル研究所を設立し、資産の取り崩し、地方都市移住、勤労などに特化した啓発活動をスタート。日本証券アナリスト協会検定会員、日本FP学会、行動経済学会などの会員。著書には、『老後の資産形成をゼツタイ始める!』(扶桑社)、『定年後のお金』(講談社+α新書)、『脱老後難民 英国流資産形成アイデアに学ぶ』(日本経済新聞出版社)など多数。